

# 東海道五十三次を往く

第24回

## 舞坂宿

### 340本もの松並木を旅人気分で散策



浜名湖を望み、隣の新居宿へ渡る「今切の渡し」を控えてにぎわった宿。JR舞坂駅近くから松並木が約700mにもわたって延び、東海道らしい街道情緒で往来する人を楽しませてくれる。並木が終わると、浜名湖名産で、数種の海苔を混ぜてつくる「ぶち海苔」を販売する海産物店や古社寺などが街道沿いに点在。さらに浜名湖に近づく、舞坂宿の見どころとなる「舞坂宿脇本陣」が現れる。天保9（1838）年建築の見事な建物は、東海道唯一の貴重な遺構だ。



広重画に描かれているのは、当時は3カ所あったといわれる「がんぎ」と呼ばれる階段状の渡船場の一つ「北雁木」付近。



### 松並木

まっすぐに延びる松並木は、のんびり楽しみながら歩ける。

### 北雁木跡

北雁木の渡船場跡。当時は舞坂から新居までの約6kmを舟で2時間程度かけて渡ったという。現在、この付近から、昭和48（1973）年に海中に建てられた高さ18mの赤い大鳥居の姿が見られる。



### 常夜灯と一里塚

左が、舞坂宿内に3基ある常夜灯のうちの1基で、文化12（1815）年に建立されたもの。また、その右奥に見えるのが、日本橋から68里（約267km）の位置を示す一里塚。



### 見付石垣

舞坂宿は、西は「今切の渡し」がある船着き場。東は江戸時代中期に作られたという見付石垣が目印。見付は見張り所にあたり、大名が通る時などには、ここに番人が立った。

ほどよい塩味で止まらなくなる！



遠州灘で水揚げされるしらすも名産。売店などで、新鮮なしらすを天然の塩味でおいしく味わえる。



海苔の養殖が盛んな浜名湖の名産で、青海苔と黒海苔の混ぜ海苔である「ぶち海苔」。磯の香りが強く、少し炙って味わうのがおすすめ。



### 舞坂宿脇本陣

東海道唯一となる、貴重な脇本陣の遺構。天保9（1838）年に建築された旧脇本陣「茗荷屋」の書院棟を復元し、大名が使用した立派な上段の間（写真上）も残されている。入口が狭く、奥行きが深い、古い家屋らしい構造を体感できる。

静岡県浜松市西区舞阪町舞坂2091  
☎053-596-3715  
営業9時～16時  
休 月曜（祝日または振替休日の場合は翌日）、年末年始



熟練のボランティアスタッフの名調子とともに歴史が学べる

**新居関所跡**

国指定特別史跡。嘉永7(1854)年に大地震に見舞われて大破した後、安政2(1855)年に改築された建物が残されている。遺構は、国の特別史跡に指定され、東側には関所資料館がある。

静岡県湖西市新居町新居1227-5  
☎053-594-3821  
🕒9時～17時(最終入館は16時30分)  
🌿月曜(祝日の場合は開館)、年末年始  
入館料:大人310円、小人100円



関所役人が勤務する様子が再現されている。



**新居宿**

箱根関所と並ぶ、東海道の重要地点に位置づけられていた新居関所を有する新居宿。関所は関ヶ原の戦いがあった慶長5(1600)年に創設され、自然災害などで三度移転を余儀なくされたものの幕末の安政2(1855)年に改築された建物が残っている。江戸時代の建物が残るのは全国でも新居関所のみ。25軒あった旅籠の中で最大の紀伊国屋は内部を公開している。



広重画では渡し舟が行き来する様子が描かれているが、今は静かな海原が広がる(写真上)。歴史ある当時の建物なども点在し、趣を残す街道(写真右)。



古い松の巨木(写真左)や、火事で黒くなった瓦(写真上)、渡し場(写真右)など当時の名残があり、歴史の一端を垣間見ることができる。



白須賀へ



**本陣跡**

新居宿には本陣が3軒あり、現在はその跡に碑が残っている。小浜、桑名、岸和田藩など約70家が利用した飯田武兵衛本陣跡(上)。徳川御三家など約120家が利用した足田八郎兵衛本陣跡(右)。



静岡県湖西市新居町新居1280-1  
☎053-594-3821  
🕒9時～17時(最終入館16時30分まで)  
🌿月曜(休日の場合は開館)、年末年始



随所に江戸期の建築様式を色濃く残し、当時の風情を体感できる施設として公開されている。



**おみやげ**



**新居名物**  
**あと引せんべい**  
胡麻煎餅、生姜煎餅など、風味豊かな4種類のせんべいの組み合わせ。はじめは硬いが、口の中でほどよく軟らかくなっていき、ほんのり素朴な甘さが広がって、その名のとおり、あとを引く。

**あと引製菓**  
静岡県湖西市新居町新居1264-3 ☎053-594-0127  
🕒8時30分～18時30分 🌿火曜